

令和 4 年度地球温暖化対策普及啓発に関するセミナー運営等業務

気候変動×SDG s ギャラリートークイベント

～ 一緒に考えよう！！「なぜ、今行動しなければならないのか？」～

実施報告書

令和 5 年 2 月 17 日

主 催：環境省東北地方環境事務所

実施団体：公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

気候変動×SDG s ギャラリートークイベント
～ 一緒に考えよう！！「なぜ、今行動しなければならないのか？」 ～ 報告

1. 目的

近年、国内でも台風の大規模化や記録的な豪雨による大規模な水害等の気象災害が頻発しており、県民の生活や生態系にも大きく影響を及ぼしている。

日本では、2020 年 10 月に菅義偉前首相が所信表明演説にて、国内の温暖化ガスの排出を 2050 年までに「実質ゼロ」とする方針を表明し国を挙げての取り組みが加速化している。宮城県では 2019 年 12 月に 2050 年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明し、2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする目標に向かって県民一人ひとりの意識と行動の変容が求められている。

そこで、最新情報と共にその影響を受け、水没する危機に瀕している国を知ることで県民の気候変動に関する関心を高める必要がある。気候変動に対して科学的知見（マクロ）と現実には起こっている事（ミクロ）から「なぜ、やらないといけないのか？」を理解し行動変容につなげるためのセミナーを開催した。

2. 概要

(1)開催概要

【日 時】令和 4 年 12 月 4 日（日）13:30～16:00

【場 所】フォレスト仙台 2 階 第 2 フォレストホール（仙台市青葉区柏木 1-2-45）

YouTube 配信

【参 加 者】100 名（内会場 42 名、オンライン視聴者 58 名）

アーカイブ再生数 208 再生

【主 催】環境省東北地方環境事務所

【実施団体】公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク

【配信協力】特定非営利活動法人メディアージュ

(2)開催プログラム

13:00 <開場>

13:30 <開会>

1. 挨拶 環境省 東北地方環境事務所 地域脱炭素創生室 室長補佐 原田和昭

2. 【講演会①】気候変動に関する最新情報

江守正多氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授、

国立環境研究所 上級主席研究員）3. 東北地方の気象の変化

3. 【講演会②】国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化

ケンタロ・オノ氏（一般社団法人日本キリバス協会 代表理事）

4. 【話題提供】地球温暖化影響による魚種の変化について

太齋彰浩氏（一般社団法人サステナビリティセンター 代表理事）

14:50 5. ギャラリートーク兼質疑応答

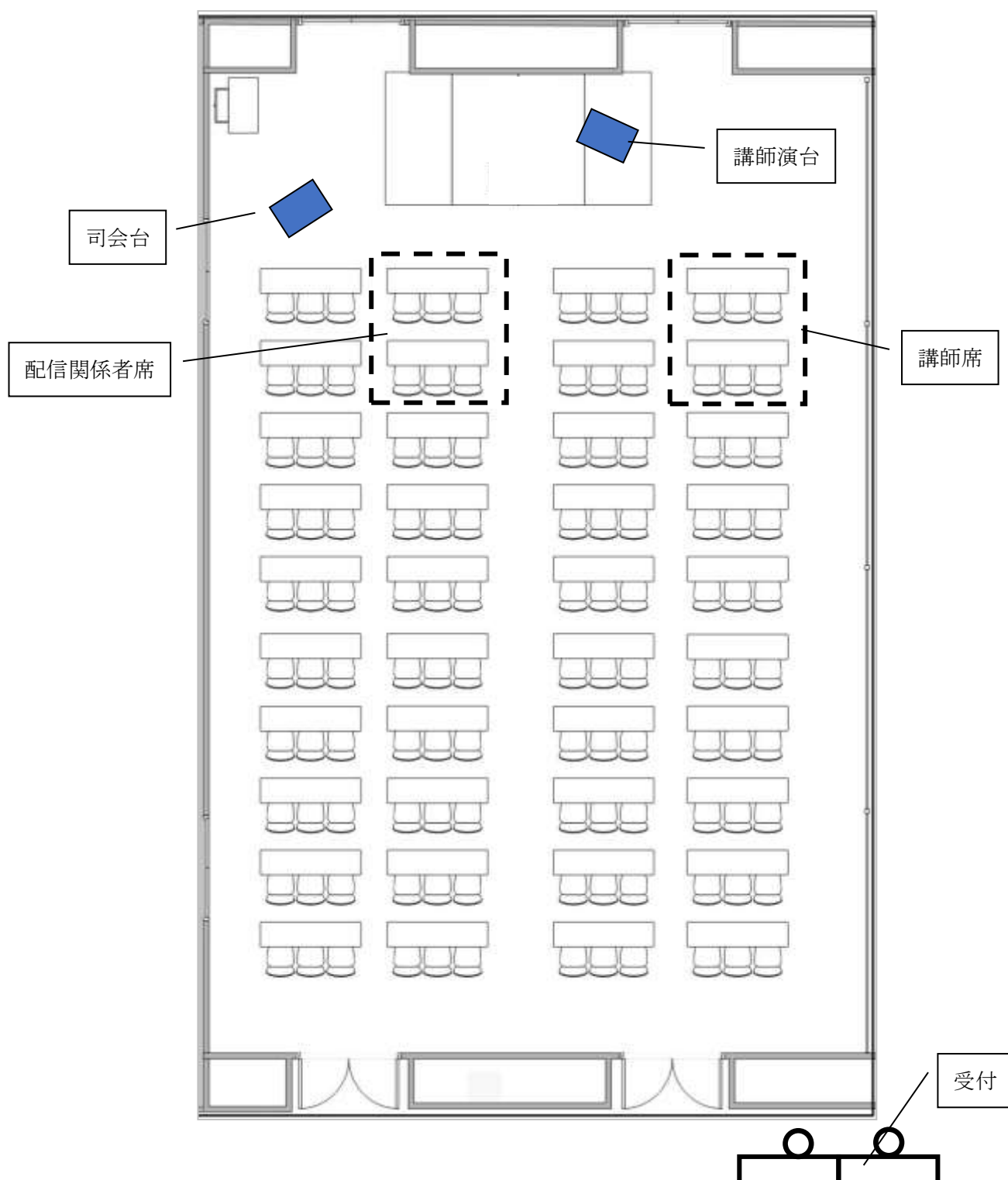
16:00 <閉会>

全体司会：盛朋子アナウンサー（ミヤギテレビ）

3. 会場レイアウト図

会 場 : フォレスト仙台 2 階 第 2 フォレストホール (仙台市青葉区柏木 1-2-45)

収容人数 : 120 名



※ 参加者席はソーシャルディスタンスを保つため 1 席空けて座ってもらうよう配置

4. 内容について

(1) 【講演会①】 気候変動に関する最新情報（参考：資料①）

地球温暖化の要因、やパリ協定の内容、更には 2022 年 11 月に開催された COP27 の論点などをお話いただいた。IPCC 第 6 次評価報告書にある気候変動の主要リスク、特に現在気温上昇によるリスクのレベルが高くなっていることについて説明していただいた。世界でも石油などといった化石燃料によるエネルギー源の推移が減少傾向になっているのに対し、再生可能エネルギーは増加しつつあり、コストの低下と共に導入拡大が広がっている傾向にあることも説明いただいた。

＜講師：江守正多氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授、国立環境研究所 上級主席研究員＞



地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長等を経て、2021 年より地球システム領域副領域長。連携推進部社会対話・協働推進室長を兼務。2021 年より東京大学総合文化研究科広域科学専攻客員教授。2022 年より地球システム領域上級主席研究員、東京大学未来ビジョン研究センター教授（クロスアポイントメント）。

専門は気候科学。気候変動に関する政府間パネル第 5 次、第 6 次評価報告書主執筆者。

(2) 【講演会②】 国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化（参考：資料②）

オノ氏がキリバス人に帰化したきっかけをお話いただいた後、キリバス共和国で起こっている気候変動の影響についてお話いただいた。2050 年には首都タラワが最大 80%海水に浸水される予想があり、既に移動を強いられた村もあること、水や食料危機にあることを説明いただいた。キリバス共和国で既に起こっている影響は喫緊のものであり、私たち一人ひとりの行動が重要であると訴えられた。

＜講師：ケンタロ・オノ氏（一般社団法人日本キリバス協会 代表理事）＞



宮城県仙台市で生まれ、高校生で日本人として初めてキリバスに単身で留学し、キリバス人に帰化。現在は仙台を拠点にキリバスの文化やそこに暮らす人々の視点から気候変動や地球温暖化について考え、一人一人の行動に繋げるために国内外で講演を行っている。

(3) 【話題提供】 地球温暖化影響による魚種の変化について（参考：資料③）

志津川湾の豊かな自然についてお話いただいた後、震災後に南三陸を支えた産業であるシロザケ漁業が過去には数千トンの漁獲量だったのに対し、今は数匹と記録的不漁であることを説明いただいた。

またここ数年東北や北海道などでサンマやイカなど様々な魚種が不漁であることを示す報道も多く、志津川湾でも南の海の生き物が見られており、海の異変がすでに起こっていることについてお話いただいた。

＜講師：太齋彰浩氏（一般社団法人サステナビリティセンター 代表理事）＞



民間の研究機関で、海洋生物・生態学研究に従事後、地フィールド密着型の教育を志し、2000 年に南三陸へ移住。箱もの施設再生により、年間数千人の交流人口創出。

東日本大震災後は、町職員として壊滅した水産業の復興に奔走するとともに「循環型でレジリエントなまちづくり」を目指し、南三陸町バイオマス産業都市構想の実現に貢献。

2018 年 4 月より一般社団法人サステナビリティセンターを設立。

(4) ギャラリートーク兼質疑応答（一部抜粋）

①それぞれの講話を聞いて

江守氏：オノ氏の話は何度もオンラインで伺っていたが、対面で聞くと迫力が違う。また、太齋氏の話も身近で起きているリアリティがあった。

オノ氏：江守氏の話は毎回勉強になり、日本に江守氏のような方がいることが心強く思う。太齋氏の話は衝撃的なことばかり。改めてキリバスだけでなく宮城でも様々なことが起こっていることを認識できた。

太齋氏：江守氏の話で 1.5℃抑制に向けての動きについて知れ、オノ氏の話では環境を暮らしている人たちを守りたいという気持ちが自分の中でも再認識できた。

②会場からの質疑応答（事前に質問票を回収のうえ、盛アナから講演者へ問いかけるスタイルで実施）

盛アナ：江守氏への質問で「IPCC の報告書が遅れている」とあったが、その遅れている理由は？とのこと

江守氏：理由は把握していないが、2023 年 3 月に出る予定。新型コロナウイルスの影響により議論・作業が予定通り進んでいないと思われる。

盛アナ：太齋氏への質問で、「アラゴナイト飽和度」について改めて説明をお願いしたいとのこと。

太齋氏：貝類などの殻が作れるか作れないかの指標とのこと。海の酸性化の指標にされているよう。

盛アナ：江守氏への質問で、「縄文海進期」について聞きたいとのこと。

江守氏：昔は海水面が何度も変わってきており、温暖化による海面上昇は嘘なのではないかという議論がある。だが、縄文時代で起こっていることは説明できる事象であり、今起こっているのは人間活動が原因で気温が上がっていることのため次元が違う。

盛アナ：江守氏への質問で、「温暖化は人間活動が原因ではない」と言う方たちの動向について伺いたいとのこと。

江守氏：言っている方はまだいると思われる。温暖化は確かに起こり人間のせいかもしれないが、大した影響はないと言っている方もいる。また、温暖化対策をしてもしなくても意味はないと発言している方もいる。

盛アナ：太齋氏への質問で、オノ氏の話の中で魚が毒をもつようになったとあったが、宮城の海でも今後あり得ることなのかとのこと。

太齋氏：シガテラ毒の話だと思われるが、先に本州で起こりそれがだんだん北上してくる可能性がある。

オノ氏：福島県ではフグが獲れるという報道はあったが、志津川湾でも獲れるのか。

太齋氏：まだそこまで多くはない。

③講師同士の議論

江守氏：キリバス国民は気候変動についてどう認識しているのか。

オノ氏：先日 4 年ぶりにキリバスに帰国したが、たった 4 年で極端に国が狭くなり、シャワーの水もしょっぱかった。気候が変わったためヤシの実が取れず、首都に人が流れることも多く、外国に行きたいと思っている人も多い状況。キリバス国民は様々な捉え方をしているが、特に若い人は危機感を持っている。若い人は学校でも地球温暖化について教育を受けているが、今後についてどうなるのか不安を持っている人が多い。

オノ氏：脱炭素と言われているが化石燃料を使い続けることができるのか、便利な素材などが出てきて置き換えることは可能なのか江守氏に伺いたい。

江守氏：石器時代が終わったのは石が無くなって終わったわけではなく、鉄や青銅が見つかったため時代が変わった。化石燃料も自然エネルギーに置き換えることは可能。自然エネルギーが安い、使いやすい、豊富にあると世界中が認識すれば転換できる。簡単には変えられないが、現代文明は過剰消費していると認識し、化石燃料、CO₂を出さないエネルギーに置き換えていくことが望ましい。

オノ氏：太齋氏に志津川湾の漁業者は今の状況をどう考えているのか伺いたい。

太齋氏：漁師自身変化に気づいており、漁船漁業は切り替えて違うものを狙う若しくは養殖に切り替えるなど考えていると思われる。漁師だけでなく飲食店も厳しい。原材料が高く、お客さんに喜んでもらいたいけど、安くできない。また、目の前の浜で取れないため、北海道から、地産地消に反する形で仕入れている。今後、取れるもので何とかやっていこうと考えていくことが必要と思われる。

盛アナ：鮭の放流をしているため、放流した川に帰ってくるのではとされている方もいるのか。

太齋氏：研究者が帰ってこないと言っているにも関わらず放流を続けている所もある。漁師よりも行政や関わっている人の方の認識が遅れている可能性もある。しかし、何十年もやってきているので文化にもなっているものを辞めるのは難しい。

オノ氏：放流した稚魚は何処に行ってしまうのか。

太齋氏：追跡しているわけでもないため、解らないが下手すればすぐに食べられている可能性もある。また、北極海の酸性化で餌がなくて死んでしまっている可能性が高い。特に海の酸性化はサンゴ礁への影響がよく話題に上がるが、酸性化は北の海からくる。今後、ぜひ北の海の影響を注目していただきたい。

太齋氏：江守氏に伺いたい。1.5℃までに上昇を抑えることについて、温室効果ガスを出さない、吸収するとお話いただいたが、他に方法があるのか。

江守氏：植林、農地に炭素を蓄積、ブルーカーボンなどの自然に炭素を蓄積するのが1つ。もうひとつCO₂を地層に閉じ込める。CSSもある。

太齋氏：キリバスの若い方の中には未来に向けて活動しようとする動きはあるのか。

オノ氏：キリバスにも環境団体があり、MELONと連携協定を結んでいる。ユースの活動を世界に発信、現在起こっている状況に適応するにはどうすればよいのか、どうやってキリバスの中で生きていけるかを検討している。一人でも多くの味方・仲間を作りたいと思っている。江守氏の言葉ではあるが、「人間の常識は変わる」、言うなれば、今まで自分が思っていた常識、概念を振り返る時期にきているのではと思っている。

④「なぜ、今行動しなければならないのか」「私たち市民が日常生活の中で具体的にどのように行動すればいいのか」について

江守氏：ライフスタイルをどう変えればいいのか、何を買い替えればいいのかをイメージすることが多いが、それも重要。「じぶんごとプラネット」というサイトでは、平均よりどれくらい光熱費を使っている、次に何をアクションすればいいのか教えてくれるサイトがあるので是非参考にしていきたい。

また、「気候変動アクションガイド」というものもある。アクションガイドの最後に、自分の生活を変えるだけでなく、社会を変えるアクションを考えてはと書かれている。例えば、情報に敏感になる、ニュースを常に見るようにする、SNSで発信している人を見つけフォローするこ

とで今何が起きていて、自分は何をしたらいいのかが入ってくる。

署名なども SNS で流れてくる。署名してみる、いいねしてみる、それだけでも意味がある。社会の仕組みを動かすことに自分はどうか参加できるのかを考えるの事もとても重要。

オノ氏：私自身、専門家でも研究者でもないため、正解がわからない。しかし、一人ひとりが調べて、考えて、納得したことが続けてできることと思われる。自分自身がやっていることは、**COOL CHOICE** に賛同、そして心がけていることは地産地消。日本にはたくさんおいしいものがある。

太齋氏：毎回ではなくてよいが、なるべく国産・宮城県産といった近場のものを選んでもらうことを心がけてほしい。自分がやっていることはちっぽけなものではなく大きなもののひとつだと意識していただきたい。

⑤最後に一言ずつ

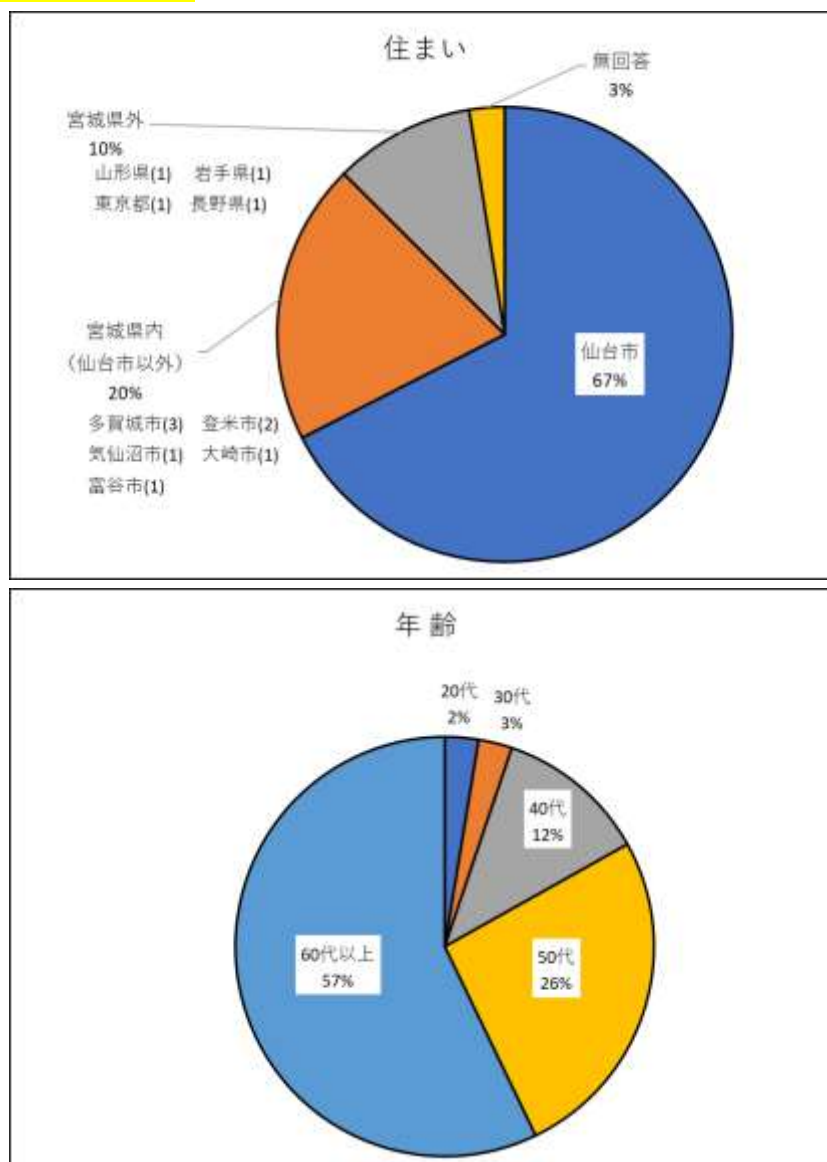
江守氏：我慢、負担、地球のためにがんばってだと取り組みは広まらない。前向きに、ポジティブに考えていただきたい。また、自分の生活を変えるだけでなく社会の仕組みを変えていくということにぜひ目を向けていただきたい。

オノ氏：気候変動は思っているよりも深刻で危険なものだと理解していただきたい。水没という無味無臭の言葉にキリバス国民 12 万人の当たり前の生活がある、数千年積み重ねてきた生活・文化がある、あの子供たちの将来がかかっている。気候変動は「ヤバイものだ」ということを理解していただきたい。希望さえ失わなければ何とかなる。SDGs は希望の 1 つ。今日参加してくれた皆さん一人ひとりの行動変容を期待している。

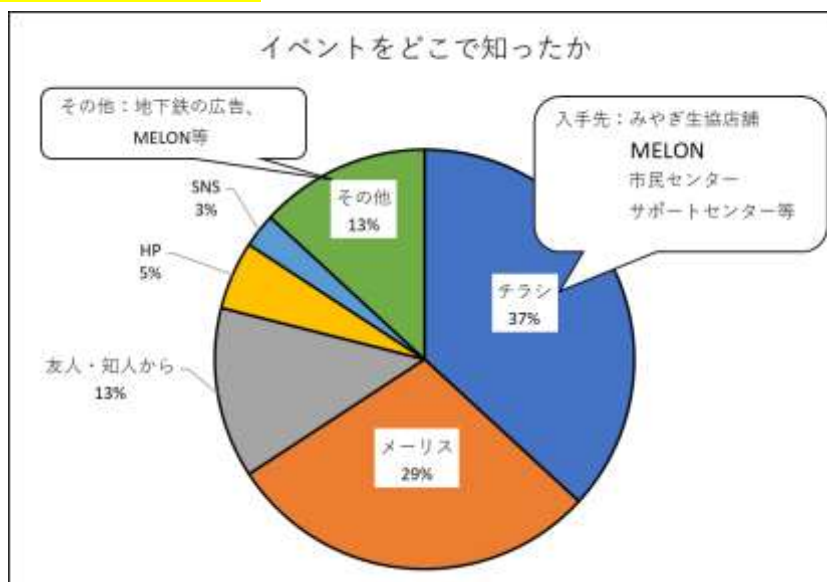
太齋氏：続けるためには仲間が必要。こういう気候変動に関するイベントの場はとても重要であり、一人ひとりの取り組みを広げることにつながるような場を作ってもらいたい。一緒に希望を失わずに進めていければと思う。

5. アンケート結果

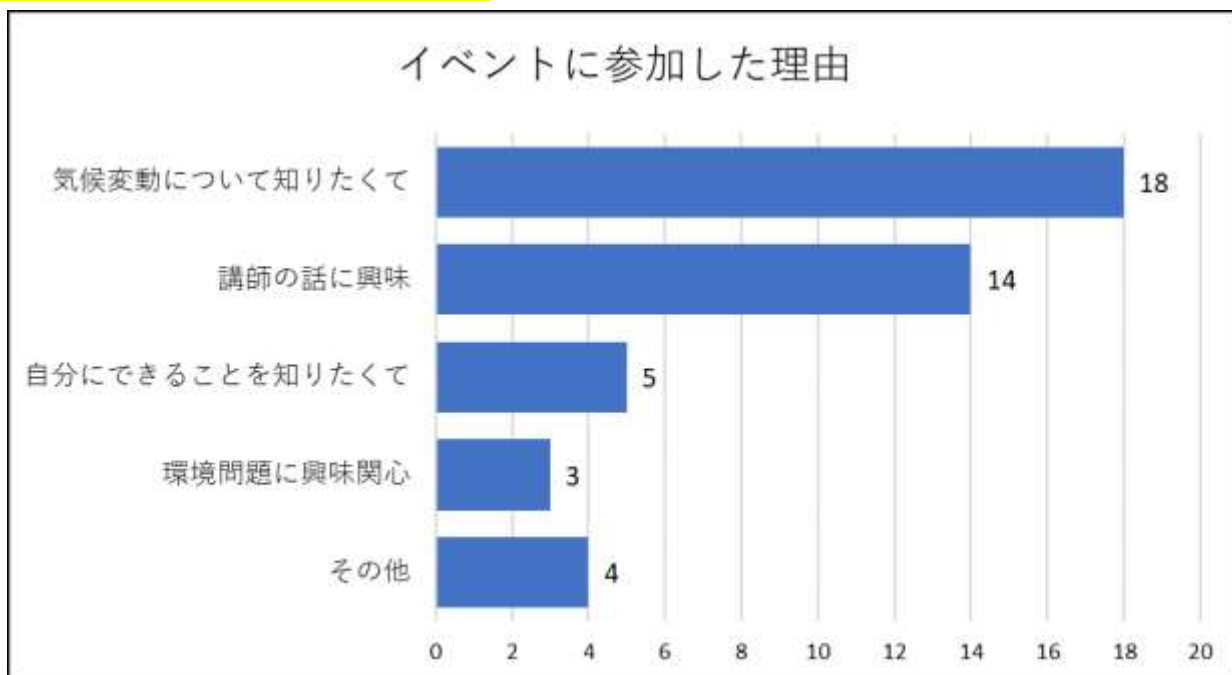
Q1.お住まい・年齢を教えてください。



Q2. 本日のイベントをどこで知りましたか？



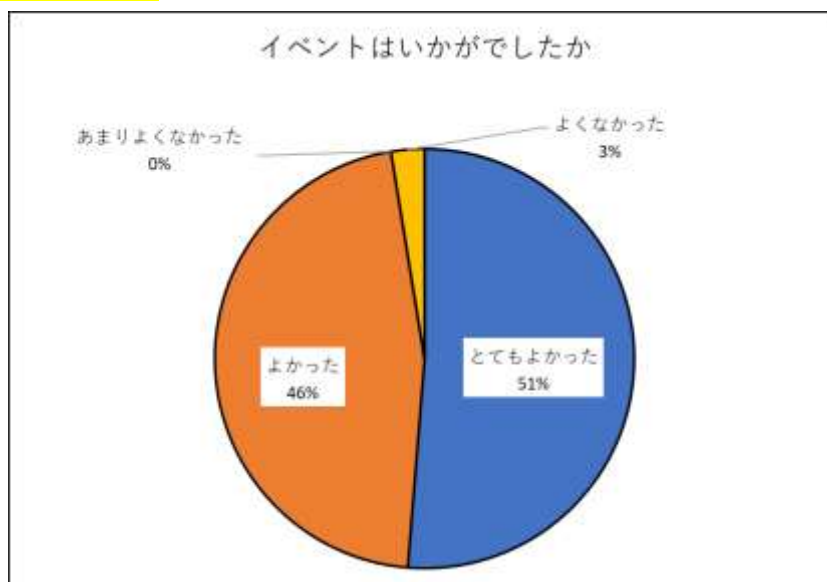
Q3. イベントに参加した理由を教えてください



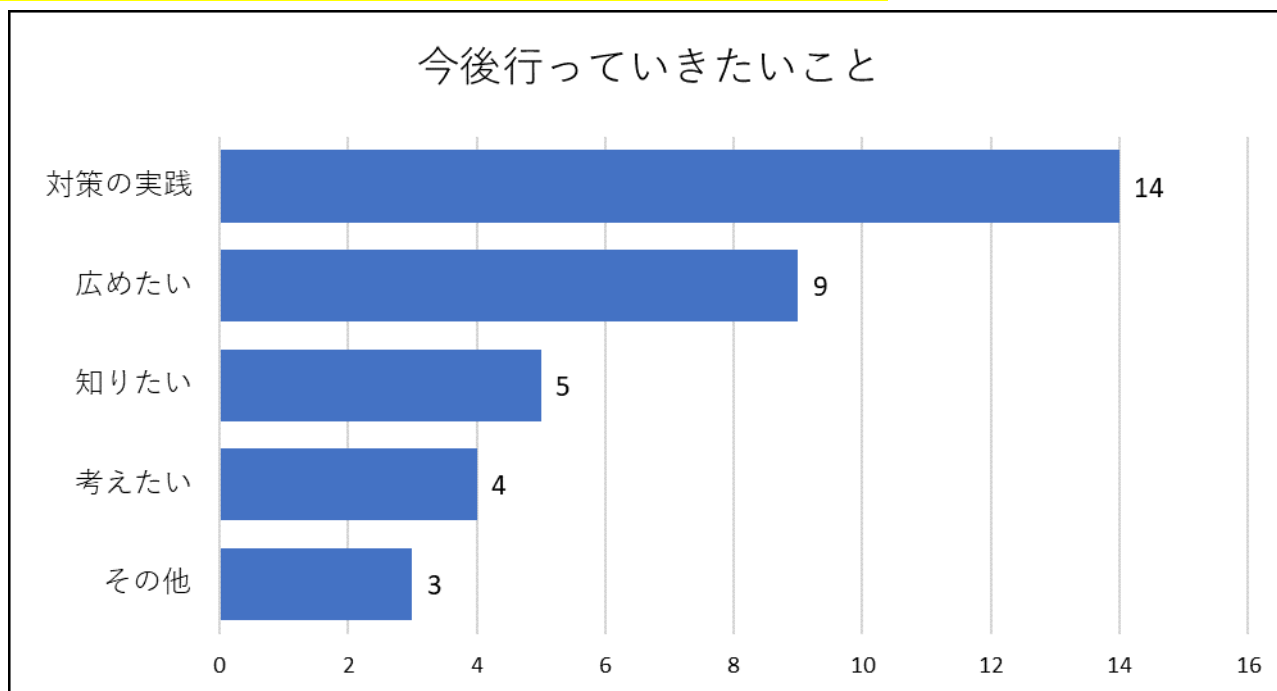
その他：

- 株・不動産投資の参考に。
- 地球温暖化防止活動推進員だから。
- MELON の活動に賛同しているから。 等

Q4. イベントはいかがでしたか？



Q5. 本日のイベントに参加し、今後どんなことを行っていきたいと思いましたか。



主な意見（一部抜粋）

＜対策の実践＞

- 自らできることを日々行うこと！ 自薦生活上で行える省エネ！楽しくポジティブに！
- 積極的に情報を収集し、日常でできることを継続的に取り組んでいきたい。
- 地産地消
- グローバルに考え、ローカルに動く。

＜広めたい＞

- 今後も知見を増やしつつ小さな柄にも何かしらの活動を広めようと思った。
- 本日聞いた内容を周りの人に伝え、二酸化炭素の排出削減を意識した生活を広めていきたい。
- 必要に応じて最新情報を伝えたい。

＜知りたい＞

- 今後も知見を増やしつつ小さな柄にも何かしらの活動を広めようと思った。
- より確かな情報収集と分析。その上で行動を起こしたい。
- また、セミナーに参加させて頂きたいと思いました。

＜考えたい＞

- 自分が出来ることを探す。
- これからもこれらのことを考え、自分の出来ることを行動してゆく。

＜その他＞

- 温暖化防止活動推進員になり、温暖化対策啓発の資としたい。
- SDGs にプラスになる投資
- 1人1人の意識を変えて行く事が大切だと思います。

Q6. 本日のイベントについてのご感想、ご要望などございましたら、ご自由にお書きください。（一部・原文まま）

- 江守氏の話、20分に限られたのが残念。もう少し「最新情報」の具体が聞きたかったです。
- ケンタロ・オノ氏のキリバスの現状と将来への不安に衝撃を受けました。実態を知ることと、自分にできることをやることの意義を改めて感じた。
- 海水面の上昇により島が無くなるのお話、衝撃でした。気候変動を何としても止めなければならぬと思います。当たり前の生活が続けられるような行動を心掛けねばならないことを気づかされました。
- 他人事ではなく、まさに自分事として捉え、日々努力してまいりたいと思います。私はもうすぐ60歳になろうとしています、これまでいったい何をやってきたんだろうと反省しております。未来、将来のある子どもたちに申し訳なく思います。
- ケンタロさんの分かりやすいお話に感動しました。未来ある子どもたちのために良い環境を残してやらないと。私たち大人の責任ですから。地域のおばあちゃんたちとスクラム組んでできることをやってみようと思う。こんなに心に響くイベントに参加でき良かったです。
- これからもこのようなイベントをお願いいたします。とてもいい構成であったと思います。
- 悲観することなく希望をもって歩む！
- 自治体でゼロカーボンシティ宣言をして取り組んでいくのですが、自治体が起こっていくことで何が必要か？を常に考えていかないといけないと思います。
- 定期的開催をして欲しいと感じました。キリバス共和国についてのアップデートも楽しみにしています！今回視聴だけではなく、活動も参加できたらなと感じています。今後もアンテナを立てて情報を得ていかなければなと思いました。
- 講師の3名の方のお話は、どなたのお話もとても興味深く、久しぶりにいろいろと考えるきっかけになりました。本来でしたら、会場に行かなければいけないところを、オンライン視聴という枠を作っていただきありがとうございました。
- 一人一人の具体的に必要な活動、日々の有効な行動を伝え続けて頂きたい。
- 江守先生から最新情報を聞いたのがとても良かった。私たちができることに声を挙げて政策に反映させることの実例も紹介された。どうかな？と思いながらインターネット署名をしていました。これからは自信をもってフォローしていきたい。
- サケの漁獲量が極端に減っている事は知りませんでした。海水の酸性化は、北から。牡蠣の殻を溶かし、牡蠣の養殖ができなくなる。マイクロプラスチック、海水温上昇、海水酸性化…。人間活動の影響が地球全体に及んでいることを意識して暮らしをいきたい。
- 3講師の講義内容のバランスが非常に良かった。3方向からの見方により気候変動の大枠が理解できた。
- 江守先生の講演はとても分かりやすく現時点での課題を理解することができました。ケンタロさんと江守先生のお話を聞き、共通して訴えていた人権侵害にも及ぶ気候変動による国際状況の深刻さを改めて感じました。ありがとうございました。
- 最新情報として「COP27では1.5℃を目指すための行動計画に進捗がなかったこと、キリバス共和国のアバイアン島デブギナコ村は移動を強いられたこと、南三陸の最低海水温度が5℃から7℃になったため南の魚種が生き延びることができていること、じぶんごとプラネットと気候変動アクションガイドが運用されていること」を知ることができた。

6. 広報

(1) チラシ・ポスター

本イベントを広く周知するため、イベントの日時・内容などを記載したチラシを 1,000 部、宮城県内の市町村の環境担当課、環境団体、文化施設等に配布した。ポスターも作成し、仙台市営地下鉄の「地域情報ボード」や宮城県内のスーパーなどに配布、掲示の協力を呼び掛けた。

(2) マスコミリリース

イベント概要などを記載した案内文書と、チラシを宮城県内の報道関係者宛に FAX にて送付した。また、下記の媒体でも情報発信を行った。

	発信日	媒体	カテゴリー
1	10/31(月)	県内報道機関へマスコミリリース	
2	11/4(金)	MELON ウェブサイト	ブログ
3	11/4(金)	ストップ温暖化センターみやぎウェブサイト	イベント一覧等
4	11/4(金)	ストップ温暖化センターみやぎウェブサイト	ブログ
5	11/4(金)	ストップ温暖化センターみやぎウェブサイト	お知らせ
6	11/4(金)	MELONnet (MELON 会員メーリングリスト)	
7	11/4(金)	地球温暖化防止活動推進員メーリングリスト	
8	11/7(月)	仙台市交通局地下鉄駅地域情報ボード	広瀬通駅、長町駅、 大町西公園駅
9	11/7(月)	全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト	イベント情報
10	11/10(木)	MELON メールマガジン	MELON ニュース イベント情報

7. 総括

新型コロナウイルスの影響もあり、会場での開催の他にオンラインでの同時配信を実施した。全体で 100 名の参加があり、60 代以上の参加が多かったが、20 代から 50 代の方からと幅広い世代に参加してもらうことができた。また、宮城県外からの参加も見られた。

「気候変動について知りたい」という思いでイベントに参加された方が多く、江守氏による気候変動の科学的知見、オノ氏、太齋氏による現在起こっている事についてお話いただいたことで理解を深めることができたと思われる。

回収したアンケート結果からも「3 名の話はどれも興味深かった」という感想も見られる中で、1 人 20 分という限られた時間だったために物足りなさを感じた方も見られた。だが、イベントに参加して今後行っていきたいことについて「対策の実践」と答えた方が多く、行動変容へ繋げることができた。

会場の雰囲気も終始和やかな場づくりができ、後半のギャラリートークでは参加者からの疑問に答えるだけでなく、講師同士が話題のポイントについて質疑し合うスタイルが参加者の理解の促進につながったと思われる。

本セミナーを通し、今後も気候変動が喫緊の問題であること、私たちが行動を起こさなければならないことを広く周知していくことが重要であることを再認識することができた。今は光熱費が高騰している中で節電などは当たり前の行動となってきたが、ただ我慢するのではなく、楽しんでできる行動や社会の仕組みを変えるための行動を促せるセミナー等を定期的で開催していきたい。